

大名みえ子です

2015.6.12 No.284
東海村村松 2401-2
電話・fax 029-284-0761

自由な意見・批判の抑圧は、破滅への道

「旧動燃不当差別」事件に、差別是正の訴えを起こす当事者 4 氏、弁護団などによるシンポジウムが開かれました

5月30日、中丸コミセンにおいて、安齊育郎立命館大学名誉教授の「自由の抑圧と安全確保は両立しない」と題する講演がありました。

講演は、旧動燃の不当差別是正のため提訴に踏み切る4人の当事者の紹介と激励のためのシンポジウムの一環として行われたものです。安齊氏は、東京大学工学部原子力工学科第1期生ですが、日本の原発政策に批判を呈する論者です。自らが体験した教育・研究体制からの排除、孤立化扱い等々、また今回提訴する4氏に行われた数々の不当差別などから言えるのは、「自由に口を利かせない日本の原発政策が安全である筈がない」ということだと述べました。

講演の後で、4氏からそれぞれが受けた不当な差別について話され、また弁護団の決意も述べられました。

「日本における原子力発祥の地東海村」と、よく言われますが、その事業所内で「安全」に関わることで、自由に物言うことが許されなかったという事実は、やはり、原子力政策への不信がつのるばかりです。



写真上: 安齊育郎立命館大学名誉教授による講演

「自由の抑圧と安全確保は両立しない」

思想差別事件当事者の訴え

- 右上から : 小松崎賢治氏
- : 菅原薫氏
- : 椎名定氏
- : 高野真一氏



映画「標的の村」上映会(6/6)終わる



↑ 石神コミセンホールへの通路で受付
上映終了後の監督の講演→



多くの方のご協力をいただき行われた映画「標的の村」自主上映会は6日、石神コミセン多目的ホールで2回上映され終わりました。上映後、2回とも三上智恵監督の講演があり、映画を鑑賞された皆さんは、沖縄の状況、沖縄県民のたたかい、世界の中で日本のおかれた状況など、吸い込まれるように聞き

入りました。オール沖縄の意思、「米軍基地は沖縄のどこにもいらない」を、日本政府は受け入れ、米国政府に要請すべきです。本映画は、2013年度キネマ旬報ベストテン、文化映画部門ベストワンに選ばれました。